

日本学術会議  
子どもの成育環境分科会（第25期・第2回）  
議事録

日時：令和3年5月17日(月) 18:00～19:00

場所：遠隔会議

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、相澤、浅野、伊香賀、大倉、神尾、神吉、齋尾、定行、都築、中坪、宮地、三輪、湯川、吉野、水口（敬称略）

冒頭に山中委員長から、今回の委員会の開催目的について説明された。

他の2委員会（土木工学・建築学委員会と環境学委員会）で本分科会の活動の紹介が予定されている。この際、キックオフを兼ねて、これまでの経緯を説明していただき、今後の課題を共有したい。オンライン会議を活用したい。

次に西田副委員長から、第25期の本分科会の設立趣旨について説明された。

乳幼児の死亡原因の現状と問題点について：事故が死亡原因の第二位を占める（健康問題）。製品による傷害の社会コスト（経済問題）。傷害データを予防に繋げる工学技術の欠如（科学技術の問題）。業際的、学際的に取り組むネットワークの欠如（社会システムの問題）。

子どもの成育環境分科会（第25期）の設立趣旨：わが国では子どもの外遊びやスポーツに関する安全・安心がじゅうぶん確保されていない。本分科会は子どもの成育環境に関する以下の点の議論を行う。

論点1：子どもの傷害や死亡に関するデータ・統計の継続的な収集とその活用：事故予防につなげるための状況を記述したデータは未公開。

論点2：地域多職種連携支援体制について：事故調査委員会の設置は困難で、人材不足から分析や改善の支援に至らない。

論点3：市民科学や行動変容の科学に基づく効果的な情報提供と社会実装のあり方などの問題：市民から直接事故による傷害データを集める仕組み、テレワーク環境やデジタルコンテンツの活用など。

続いて、各委員によるフリーディスカッションが行われた。

前期（第24期）の活動内容との整合性、本委員会の従来 of 活動に関して上記の2委員会における説明、今期の方針が外遊びの制限につながらないかという懸念、データ収集におけるプライバシー確保の問題、AI-readable なデータの作成、現時点での市民の参加状況などについて議論された。

最後に山中委員長から今後の会議の開催方法について委員の提案が求められた後、閉会となった。